



写真 3.7 上部作業道から崩壊地への雨水流入の痕跡

#### (5) 崩壊地⑤

集材路の上部から下部までが崩壊している。崩壊面はほぼ砂質土で覆われており、若干粘性土が見られる程度である。地形は全体的に平行斜面を呈しているが、崩壊頭部部分が若干の凹地形となっている（崩壊後のためそのような形になった可能性もある）。崩壊面上部に若干の植生が見られるが、雑木やシダ植物が多く薄い根系層が確認される。ただし、伐採跡の株を見ると約 60cm～1m 程度の深度で根系が発達していたことが確認できる。



写真 3.8 崩壊地⑤の状況

#### (6) 崩壊地⑥～⑧

沢地形の谷頭の崩壊地であり、谷頭付近の多くの箇所が崩壊している。崩壊面は風化しており粘土質で、周囲はススキ等の草本類で覆われている。付近で確認できる伐採株の根系からは、根系がしっかりと発達しており深さ 1m 以上伸長していることが確認できた。

また、当該崩壊は比較的崩壊深が深い(2m程度)と考えられるが、崩壊地頭部付近の崩壊面にパイピング跡と考えられるような穴が確認されたことから、地下水の影響により崩壊した可能性がある。



写真 3.9 崩壊地⑥～⑧の状況



写真 3.10 崩壊面に確認されるパイピング孔と根系の伸長状況

#### (7) 崩壊地⑨

当該地区では一番規模の大きな崩壊地。谷頭付近の凹地形で集材路に沿う形で崩壊している。地内には一部土塊が残存している状況となっている。判読されている崩壊地よりは半分程度の大きさとなるが、崩壊地⑥～⑧と同様、若干崩壊深の深い崩壊地となっている。



写真 3.11 崩壊地⑨の状況（ドローンでの確認）

#### (8) 崩壊地⑩

谷頭（溪流沿い）の小さな崩壊地。集材路を頭部とするが、溪岸の侵食が起因と考えられる。崩壊地自体は非常に小さいが、もともと溪流になっていたためか土砂流下区間は比較的長く、流下区間内は大きな礫が堆積している。



写真 3.12 崩壊地⑩の状況